

関電、プルサーマルで大失態 原発コストは嘘だった

美浜原発を廃炉に追い込もう

私たちは美浜2号の蒸気発生器細管破断事故18年に当たって、2月6日午後6時から関電本社で交渉を行いました。申し入れ書では、事故から「18年たっても貴社の原発の『安全管理』体制、品質保証システムの確立は口先ばかりです」と批判し、美浜原発の閉鎖、M7.3の直下地震に耐えられない原発の閉鎖、原発の耐震性についての公開討論会開催、MOX 燃料製造・プルサーマル計画の中止を求めました。公開質問書も提出し、プルサーマルに関するインターネット上での宣伝とパンフレットの内容が、虚偽であることを具体的に問い質しました。

美浜原発など関電の原発は「10年ごとに運転の見直しを行なっている」、浜岡原発での廃炉決定は「中部電力なりの判断」であるとして、廃炉要求への明確な回答を避けました。関電は廃炉とか運転延長とか「前提を置いて判断しているのではない」、「関電は原発を60年間のメンテナンスで考えている」とも答えました。

浜岡に続き、関電の美浜原発を廃炉に追い込む運動を関西全体で早急に広げ、強化する必要を感じました。

原発など電源別コストのグラフはニセ物

プルサーマルに関しては当日提出した公開質問書の中の、原発コストに関する虚偽宣伝に話が及び、関電がホームページ上で、法定耐用年数ベースでは原発コストが安いと示している棒グラフが、実は運転年数40年で計算したグラフにすり替えられたニセ物だったことを追及しました。

広報の担当者は「法定耐用年数で比較しても原子力と火力は同程度なので、『遜色ありません』と表現した」と強弁します。

でも、ホームページ上で示しているのは40年運転

の方のグラフ。「遜色ありません」の表現よりも、グラフの方が目立っています。これを見たら原発の方が安いと思うのが当たり前。「広報」担当のプロともある人がそんなことも分からないと言うのでしょうか。関電の返答には呆れるばかり。

ウソのオンパレード、ホームページとパンフ

公開質問書ではほかにも、いろんなウソとゴマカシの宣伝、言い訳を地元福井を中心に行なっている関電のCMや宣伝について聞きました。

「使用済みウラン燃料の中の95%がプルサーマルで再利用できる」、「プルサーマルでウラン燃料が25%節約(本当は13%程度)できる」、「プルサーマルでウランの利用年数が数倍から数十倍に延びる」などのデマ宣伝へ追及が及ぶのに恐れをなしたのか、原子力事業本部にお伺いを立てる必要もない広報に関する質問なのに、「今日は質問書を受け取るだけだ」と称して、1時間もたたず交渉を一方向的に打ち切り、席を立ったのです。誠意のかけらさえ見せません。

後日こっそりホームページを2度書き換え しかも、おわびの一言もなし

2日後の8日、まさかそんなことはないだろうと思いつながら、関電のホームページをのぞくと例の棒グラフの上に「各電源の発電コスト比較(法定耐用年ベース)」とウソの表示をしていたのを「各電源の発電コスト比較」という表示に変えているではありませんか。法定耐用年ベースのデータでは無いことを事実上認めた瞬間でした。「参考文献:電気事業分科会コスト等検討小委員会資料(平成16年1月)」と、出典を示していますが、これではその資料の中のどのデータかはわかりません。事情を知らずに見た人は40年運転か法定耐用年数か、もっと別の条件なのか知らぬまま、原発のグラフが一番低いグラフのままな

ので、やはり原発はコストが一番安いと思うでしょう。しかも「遜色ありません」の表現も残っています。

私たちがこのことを即刻若狭ネットのホームページで批判すると、何と驚くことに、2度目に書き直しを行なったのです(10日に確認)。

「(運転年数40年ベース)」の表示が「各電源の発電コスト比較」の後ろに入ったのです。ようやく、あるべき表現があるべき場所に納まったのです。「法定耐用年数ベース」と記載していたのは「誤りでした」との表現も入りましたが、「謝ります」、「済みませんでした」の一言もないのです。しかも、原発に係わる重要な基本データの誤りを長期間放置し、記者会見も行なわず、こっそり逃げようとする姿勢は、偽装事件の記者会見で「知らなかった」とふんり返る企業幹部よりたちが悪いことは誰の目にも明らかです。

しかも、設備利用率を80%と高めに設定していますが、実際は美浜1号がなんと52%の低さ。高浜3、4号と大飯3、4号は80%台ですがあとは60%台が4基、70%台が2基。

運転年数も、関電が現在示しているグラフでは未経験で、より危険な40年運転でのコストで、割引率3%は今の低金利の経済情勢では高すぎる設定です。全てが絵に描いた餅の世界の話。原発周辺を見れば、老朽化とともにトラブルが頻発し、危険な被曝労働に下請けの請負作業員はあえぎ、年金生活者は低金利に泣いているのが現実です。法定耐用年数ベースで比較した電源別のコストをグラフ表示すべきです。

それから関電はプルサーマルのサイトにあった2008年3月作成のパンフレット「関西電力のプルサーマル計画について」を同時に削除しました。ホームページと同様の虚偽に満ちた内容なので引っ込めたのでしょう。福井各地や展示室などに置いていたと思われます。もしお持ちの方は確かめてみるとよいでしょう。

関電はプルサーマル推進を地元や市民団体の反対を押し切って強行し、その結果MOXペレット外径データねつ造・改ざん事件やMOX燃料輸送容器中性子遮蔽材データ改ざん事件などがくり返されてきました。プルサーマルに関しても関電はろくなこ

とをこななかったのです。3度目の大きな失態です。今回の実にみっともない話は関電広報部の責任です。

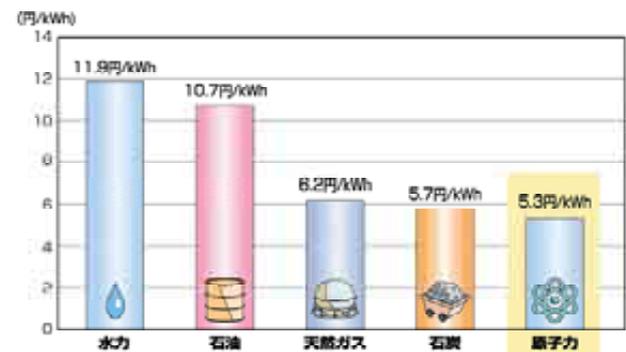
後日、広報は若狭ネットに対し「3月始めに説明するから、面談に来てほしい」と連絡してきました。何を話すのかと聞くと何も答えず、動揺の色を濃くしたのでしょうか。3月27日に本社で交渉することになりました。

関電はプルサーマル計画を中止すべきです。ウソと虚構の宣伝を公の場で謝罪し、やめるべきです。

(以下は関西電力の現在のホームページより抜粋)

各電源の発電コスト比較(運転年数40年ベース)

もともと原子力発電は発電コストに占める燃料費の割合が小さく、プルサーマルを考慮しても、他の電源コストと比べて決して遜色ありません



参考文献: 電気事業分科会コスト等検討小委員会資料 (平成16年1月)

[設備利用率 水力45%、石油・天然ガス・石炭・原子力80%、割引率3%で算出]

() ~ H21.2.6まで(法定耐用年数ベース)と記載していたものは(運転年数40年ベース)の誤りでした。なお、法定耐用年数ベースでの各電源の発電コストは、水力10.6円/kWh、石油12.2円/kWh、天然ガス7.0円/kWh、石炭7.2円/kWh、原子力7.3円/kWhです。

[水力40年、石油・天然ガス・石炭15年、原子力16年、割引率2%、設備利用率は運転年数40年ベースに同じ]